



日本ルイ・アームストロング協会 ワンダフルワールド通信 No.85

日本ルイ・アームストロング協会 (ワンダフルワールド・ジャズ・ファウンデーション=WJF) 2015年6月発行
〒279-0011 浦安市美浜 4-7-15 WJF 事務局 TEL:047-351-4464 FAX:047-355-1004 Email: sairts@js9.so-net.ne.jp
ホームページ <http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf/>
発行人 代表・外山喜雄 編集長・山口義憲 編集・小泉良夫

久々にWJFならではのアカデミックでプロフェッショナルな特別例会

全米にも通じる! 『サッチモとポピュラーミュージックの世界』開催

銀座十字屋「十字屋ホール」を満席にした充実のプログラム

サッチモこと、ルイ・アームストロングはなんといっても“ジャズの王様”。だが、“ポップス”というニックネームもあり、本来“オヤジさん”を意味する、この愛称は同時に“ポピュラー音楽(ポップス)の旗手”というもう一つの顔も浮かび上がらせる。そんなサッチモの半面をクローズアップさせる試み、WJFの特別例会を兼ねた『サッチモとポピュラーミュージックの世界』が3月28日、東京・銀座の中央通りに面した中央区銀座3丁目、銀座十字屋9F・十字屋ホールで開催された。この日、特別ゲストとして飛び入りしたNYCを中心にグローバルな活躍をしているダリル・シャーマンさん(p,v)は、外山夫妻に「素晴らしい! このプログラムならリンカーンセンターバンドのように、そのまま全米の文化センターを廻れますよ」と絶賛。まさにWJF設立21周年へ向けてのWJF例会としてふさわしい企画となった。(小泉良夫)



「十字屋ホール」のイベント会場で、外山さんと歌う、スペシャルゲストのダリル・シャーマンさん(上段のメイン写真は、相馬威宣さん撮影)

WJF21周年への歩み

専門家、ファン…外山夫妻はもとより“サッチモー筋”のみなさんが集まって…

WJFならではの久々の例会がサッチモの“もう一つの顔”を活写！

サッチモの世界的コレクター、佐藤修さんが“ポピュラーとサッチモ”を熱弁

午後2時開演。この多目的ホールはすぐに満席(約120人)の盛況。第1部冒頭、外山夫妻が挨拶に立って、このイベントが「十字屋」創業140年の一環と告げる(写真下)。

受け継いだ現在の株式会社「銀座十字屋」の設立が1937年(昭和12年)とかで、この頃はまさにサッチモの“ポップス”としての全盛期とオーバーラップしてくる。またまたサッチモが天国でイタズラをしているに違いない。

まずはサッチモのTV映像が映し出される。『ムーンリバー』は珍しい映像で、イギリスの名司会者、デイビッド・フロストがアメリカのテレビで持っていたデイビッド・フロスト・ショーから。トーク番組でソファに座っているサッチモが、TV司会者のリクエストに答えて、陰で流されたピアノだけを伴奏に語るように歌い始める。ジャズボーカルも楽しんで

いらっしゃる十字屋会長の中村千恵子さん、とても感激されたそうで、「そうなのよね、この曲はこういう曲なのよ…」と、涙を浮かべていらっしゃったと、後で伺った。

そして1967年…ベトナムの戦場に向かう兵士たちの前で歌い、演奏するサッチモの『ハロー・ドーリー！』、ステージを見つめ、笑顔で聴き惚れる兵士たち。何度見ても感激を新たにす。デイビッド・フロスト・ショーの映像は、第2部でも、リクエストに応じて『この素晴らしき世界』を歌うサッチモ(写真上)…サッチモは人種を超えてすべての人たちに愛されていたに違いない。そんな外山夫妻の“サッチモー筋”の思いが、これらの映像にも集約されている。

**「ジャズの王様」にもこんなヒットソング…
世界を駆け巡ったサッチモのポピュラー**

セインツの演奏は、サッチモのヒットソング『メイム』(196

6)、『バラ色の人生』(1950)、『スターダスト』(1931)と続き、サッチモが演奏したちよっぴり変わったポピュラーソング『リンゴの木の下で』(1937)も出た。続いてハワイアンで

お馴染みの『小さな竹の橋』(1937)、『ラ・クカラチャ』(1935)、『二人でタンゴ』(1952)、『スコークリアン』(1954)…世界を巡ったサッチモにふさわしく、ここでのポピュラーソングの演奏も世界を巡っていく。

外山夫妻始め“サッチモー筋”の方々は、沢山いらっしゃいますが、

ここで登場の、この方も“サッチモー筋”。サッチモ・コレクターとしては、もはや世界的な！佐藤修さん(ポニーキャニオン社長、日本レコード協会会長など要職を歴任)が、本日のト

ークゲストとして「サッチモ・ジャズとポピュラー」を語る(写真上の右)。

「俺たちがやっていることは芸術で、誰にも分かってもらえなくてもいいんだ…なあんていうミュージシャンはおりません。みんな何とか大衆のみなさんに受け入れられるようにやっているんです。アームストロングもみなさんに愛されるような演奏をしてきたのです。そんなポピュラーとしての演奏、スイング感が、黒人の作ったジャズを白人に浸透させて、世界的に広まっていったのです。決して白人に迎合していったわけではありません。音楽は聴き手に受け入れられなければならないのです。人々にうけることが一番大事なんです」

黒人社会からは疎んじられ、白人社会からは差別され続けても、ステージでは笑顔を絶やさず、みんなに愛される音楽を演奏してきたサッチモ…以前、佐藤さんは、『サッチモは世界を巡る』の映写会で、そんなサッチモの辛かっただろう心境を話されていて、ステージで嗚咽してしまった



こともあった。

「ジャズは黒人のための黒人の音楽と思われていました。でもアームストロングがニューオリンズからシカゴ、ニューヨークへ出て行って演奏活動を続けた。ラジオにも流れた。それを白人が聴いて“これは白人にも受けるんじゃないか。商売になるんじゃないか”と思ったわけです。そして世界中に受け入れられていった。さっき、外山さんの奥さんも言っていました、サッチモは、自分がやっていることを決して“ジャズ”だと思っただけじゃなかったでしょう。俺がやっているのはジャズで芸術なんだなどと思うわけがありません。ジョージ・ルイスは自分のバンドに“ニューオリンズジャズバンド”と付けていましたが、サッチモは生涯、自分のバンドに“ジャズ〜”と名付けたことはありません」



です。もちろんこの曲も会場で熱唱してくれました。CDジャケットの満開の桜を背景にクローズアップされた彼女のポートレートは、外山さんが撮影したんですって(写真左)。場所は靖国神社とか。私も1枚購入。

セインツのメンバー一人一人をフィーチャー サッチモ・バンドの一員となって演奏、お話し

休憩を挟んで第2部は、“サッチモ版”フォスターの名曲『懐かしのケンタッキーホーム』でスタート。以下、次々とサッチモ・バンドのメンバー・フィーチャー曲をセインツのメンバーがフィーチャーされて“再現”していく。『ボラーレ』(粉川忠範=tb)、『ダーダネラ』(鈴木孝二、広津誠=cl)、『アイム・ビギニング・トゥ・シー・ザ・ライト』(藤崎羊一=b)、『オチチョニア(黒い瞳)』(サバオ渡辺=ds)、『ブルームーン』(外山恵子=p)…2部でもサッチモは世界を駆け回る。

フィーチャーされたみなさん、演奏の前に珍しくマイクを持たされて、ちよっぴりおしゃべり。これが常連のファンのみなさんにも、「お人柄が偲ばれてとてもよかった」と好評だった。

フィナーレはもちろん『聖者の行進』。みなさんもセカンドラインとなって傘を手に手にセインツに続いて会場を回る。ダリルさんでなくても、本当に素晴らしい、ユニークな企画。みなさんご苦労さまでした。

この会報の山口義憲編集長からも こんな感想をいただいております

WJF例会は久しぶりだったけれど、会場の銀座十字屋では、おなじみの会員の方々にもお会いできたし、セインツとゲストの演奏もとても楽しく、素晴らしい土曜日の昼下がりとなりました。

第2部でのセインツ・メンバーのフィーチャーは、いつものステージだとプロフェッショナルな楽器演奏だけなのだけれど、今回の例会ではメンバー一人ひとりのコメントと演奏という趣向が愉快で、興味深く、胸に届いて、楽器演奏と一味ちがったメンバーの個性がにじみ出ておりました。

粉川忠範さんは、サッチモと一緒に演奏していたトロンボーンのアイルー・グレンのスタイルで『ボラーレ』を演奏。「グレンはこの曲、プランジャー(編集部注=tb用のミュ

スペシャルゲスト、ステキな歌姫が登場 ダリル・シャーマンさん、飛び入りの熱演

さて、この日は、プログラムにもなかった素晴らしいゲストが登場した。ステキなレディー、弾き語りの名手ダリル・シャーマン(Daryl Sherman)さん。ニューヨークを中心に活躍している歌姫。



渋谷区・代官山でライブ中だったが、この催しに駆けつけてくれた。『星に願いを』や、第2部では、ここ銀座十字屋の会長、中村千恵子さんが飛び入りで歌う、映画『カサブランカ』のテーマ曲『As Time Goes By』に彩りを添えてくれた(写真上)。冒頭にもご紹介したように、この歌姫がこの企画を絶賛し「ヨシオ、この企画で全米すべての文化センターを回れますよ」とまで言ってくれたのです。

そんな彼女の情熱をストレートに受け止めてくれた方も少なくなく、彼女が持参したCD『マイ・ブルー・ヘブン』15枚は即完売。なんと日本語で『私の青空』を歌っているの



ト使用だけれど、今日、私はプランジャー使用しないスタイルで演奏します」と照れながらコメントしておりました。

クラリネットの広津誠さんは、エドモンド・ホール
のクラリネット・スタイルを実演で解説、例会に相
応しいアカデミックなジャズ講義の後、『ダーダネラ』
を鈴木孝二さんとデュオで演奏したのです。

ベースの藤崎羊一さんは、「昨日、スピード違反
で捕まりまして…」と報告のあと『アイム・ビギニン
グ・トゥ・シー・ザ・ライト』を反省を込めてスピード感あふれ

るビートで演奏しました。

サバオ渡辺さんは「とにかくドラムを聴いてください」と蘊
蓄コメントなしで怒涛の『オチチョニア』ドラムソロを演
奏、満員の会場をうならせました。

外山恵子さんは「ルイは、自分の音楽を芸術とか
Jazz とは思っていなかったんですね」とコメントして
『ブルームーン』のピアノソロを聴かせました。

「我々はジャズマンの素顔がみたいのだ！」という
言葉を思い出した次第です。 (山口義憲)



十字屋さん創業は1874年——ジャズの歴史と伝統の時代をともに歩んで 140周年記念コンサートの最終回をWJFも共同開催で参加できて光栄！ 外山喜雄

お陰様で日本
ルイ・アームスト
ロング協会は発
足21年を迎えま



す。ルイ・アームストロングをテーマとした例
会は、3月に銀座・十字屋ホールと共催の
例会で56回目となりました。銀座十字屋さ
んは、創業が1874年の老舗楽器店、明治
7年、なんとアメリカの南北戦争が終わった
9年後…。昨年2014年は創業140年にあ
たり記念コンサートを開催、その最終回を
迎えた今年、私たちの担当した『サッチモと
ポピュラー音楽の世界』が受け持たせてい
ただきました。ジャズの歴史では、南北戦
争で敗れた南軍の楽器を黒人たちが手に
してジャズが生まれた！！ そんな歴史と
伝統の時代を歩んでこられた銀座十字屋さん
の企画に、例会の共同開催の形で参加できて
光栄です！

「サッチモとポピュラーミュージック…」 音楽ビジネスの世界から—佐藤修さん

『サッチモとポピュラーミュージックの世界』を
テーマに、ポニーキャニオン社長、そして日本
レコード協会会長も務められ、レコード業界とい
う音楽ビジネスの世界に精通された佐藤修さん
(サッチモとジョージ・ルイスの大ファンで、サッ
チモとルイスの指折りのコレクターでもあります)

に、レコード／音楽ビジネスから見たサッチモの興味深い
視点も解説して頂き、大変貴重な例会になりました。

ありがとうございました！！ (写真上は佐藤修さん=右=
と外山さん)

サッチモと ポピュラー ミュージックの 世界



外山喜雄とテキシーセインツ

2015年3月28日(土)
開場13:30 開演14:00

主催 十字屋ホール
協力 日本ルイ・アームストロング協会

十字屋ホール

一見、商業主義とは対極のジャズ ニューオリンズと黒人社会の奇跡

ルイ・アームストロングは1920年代、数々の
歴史に残る名演を残しました。レイス(人種)レコ
ードと呼ばれた黒人層向けのレーベルに、ニュ
ーオリンズ以来演奏してきた曲やブルースを取
り上げたサッチモの名演の数々が残されてい
ます。『ウエストエンド・ブルース』、『タイト・ライ
ク・ジス』、『ポテトヘッド・ブルース』…。一見、
商業主義とは対極の、ジャズ史を変えた芸術
作品とされているレコードですが、当のサッチ
モは全く芸術作品を作っているという自覚はな
かったことが、実に興味深いことです。ニュ
ーオリンズの黒人社会、スラムに住む隣人たちが
驚喜した音楽をシカゴで、主に“黒人大衆のた

めに”吹き込んだ。そのSPレコー
ドは手巻き蓄音機で、主に黒人
一般大衆の家庭や、祭日の楽し
みだったピクニックのBGMなどで
流れ、ラジオを聴くように、また、
合わせてダンスをしたり…といっ
た、実用的な商品だったのです。

しかし、そうした実用的な商品
が、驚くほどの高い芸術性を持っ
ていた、という驚異の事実がありま
す。これはジャズを生んだ街ニュ
ーオリンズの、そして黒人社会の

奇跡です。暴力沙汰や殺人事件にあふれ戦場とまで呼ば
れたサッチモ少年を育てたそんな街。多くの人々が小学
校を出ると働き始め、文盲率も高く、どん底の貧困、、、そ
んな人々が毎日曜通う教会に行ってみると、そこは強烈に



スウィングするこの上なく美しいゴスペルに満ちている！ そんな不思議に似ているのかもしれない。

そんな斬新で強烈なスウィング感と楽しさ、そして芸術性が、わずか数年の間に世界を魅惑してあっという間に、世界中の音楽がジャズでスウィングしはじめる…。これは正に、最大の20世紀の不思議発見です。

全世界が斬新な音楽とスウィング感に衝撃 ターゲットも黒人大衆から白人大衆を意識

最初は、黒人大衆が主な消費者だったサッチモの音楽…もう一つの側面がありました。それは、後のジャズシーンを大きくリードすることになる黒人、白人双方のミュージシャンが、ニューオリンズの街の先駆者たちとサッチモが生み出した斬新な音楽とスウィング感に衝撃を受け、必死にそれを学ぼうとし、革命的ともいえる大きな影響を受けたことです。フレッチャー・ヘンダーソン、デューク・エリントン、グレン・ミラー、ベニー・グッドマン、コールマン・ホーキンス…その他全米、全世界のすべてのミュージシャンがレイ・アームストロングの影響を受け、“世界がジャズ化”していったのです。

そうした影響と同時に、サッチモ自身も、主に黒人大衆に限られたターゲットから白人大衆を意識した、当時の流行歌を積極的に取り上げていくレコード業界の流れに乗っていきます。人種差別が激しかった当時、白人が、ましてや白人女性が黒人のレコードを聴き、黒人音楽に熱狂するのはタブーでした。約30年後、もともと黒人音楽であるロックン・ロールに白人女性が熱狂できるために、エルビス・プレスリーという白人の身代わりが必要だった。そんなアメリカ社会と人種事情の中で、サッチモのレコードが白人に受け入れられていったのは、すごいことだと思います。1928年、当時の流行歌、ポピュラーソングを積極的に取り上げ始め、レイ・アームストロングのジャズが白人大衆に受け入れられたときジャズは大きな飛躍を果たしたのです！！

白人にも受け入れられやすいポピュラーソングを取り上げたことで、サッチモの斬新な音楽感覚、スウィング感が、ボーカルスタイル等が、黒人社会を飛び出して、より広い白人大衆に浸透していった。また、サッチモの独特で斬新



世界をスウィングさせたサッチモ=COLUMBIA AAD 46996のCDジャケットから

な感覚が、白人的だったポピュラー音楽の世界に革命を起こした。このことは、後のジャズ全体の発展にこの上ない影響と、可能性を開拓したと思います。いろいろな意味で、もしサッチモが居なかったら、ジャズは、黒人社会の限られた聴衆のための音楽として、世界的広がりも待たず今は忘れ去られた音楽となっていたか

もしれない…そんな感慨も抱きます。

サッチモの一生は、ニューオリンズの街を流れる大河ミ



「スウィングジャーナル」誌1970年7月号に掲載されたNYコロナの自宅できつろぎ、笑顔をはじけるサッチモ=写真家、故佐藤有三氏撮影

シシッピーのようです。映画に進出しスターとなり、数々のヒットソングを生み出し、60歳を超えてまた、生涯最大のヒット、『ハロー・ドーリー！』で世界の人気者に。そして1971年に他界した後も、1987年映画グッドモーニングのヒットと共に、『この素晴らしき世界』というメガヒット！吹き込み後20年近く経ち、まさに『天国から』の快挙だ！

現在博物館として一般公開されているNYコロナにあるサッチモの家博物館に、サッチモの偉大さを伝えるあるものが

残っている。『ミスター・サッチモ、USA』のあて名だけで、家まできちんと配達された手紙だ！世界中で何億という人が知る有名人、サッチモならではの話だ。

この例会で、十字屋ホールの森泰義さんからご提案いただき、佐藤修さんのご協力を得て『サッチモとポピュラー・ミュージックの世界』を取り上げ、ユニークなポップソングに焦点を当てました。レコードからの譜面起こし、歌の歌詞を覚えて、練習で耐久力を付け、リハを重ね、解説等の司会にも頭をひねって…そんな中で、例会の最後、一つ大切な締め(?)の言葉をお伝えしたい…とっていた一

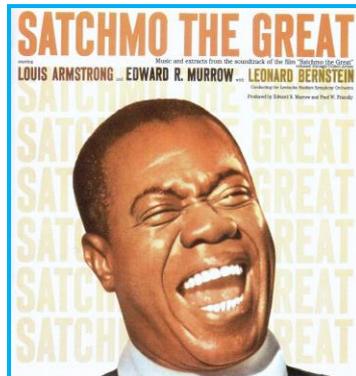
言を言い忘れてしまいました。ここに、お伝えしたいと思
います。

(以下、言い忘れてしまった、とっておきの結びの言葉
を添付)

満面の笑顔と共に白人黒人を問わず人々の心の中の奥深く入り込んだ男

1922年に亡くなった黒人喜劇役者
でサッチモも子供のころに憧れたバー
ト・ウィリアムスは、黒人エンターテイ
ナーの草分け的存在の芸人。デューク・
エリントンも彼への尊敬をこめ、『バー
ト・ウィリアムスの肖像』という曲を残しま
した。

このバートについて、アメリカの黒人
で、白人黒人双方の人種から尊敬を
集める植物学者のジョージ・ワシントン
・カーバー(1864-1943)がこう言っ
ています。カーバーは教育の機会もない
奴隷として生まれながら、ピーナッツと
綿の栽培を交互に行う輪作で土地の
劣化を防ぐ画期的な農法を経験的に
編み出し、ピーナッツの多様な用途も発見、アメリカ
では知らない者がいないほどの偉人です。



これぞサッチモの笑顔＝「ルイ・
アームストロング サッチモ・ザ・
グレート+3」(SRCS9606)のCD
ジャケットから

「バート・ウィリアムスは、満面の笑
顔と共に白人黒人を問わず人々の
心の中の奥深く入り込んだのだ。これ
は、私が黒人の人種のために成し
遂げたことより、ずっとすごいことだ」
……と。

サッチモの一生も、まさに、これでした。
こぶしを振り上げるより、サッチモスマイル
の笑顔とスウィングするニューオリンズ・リ
ズムで世界の人々の心奥深く入っていき、
感銘を与えたのです。

(注＝このカーバーは、WJFが楽器を贈っていた
G. W. カーバー高校の学校名にもなっている)

素晴らしいお客様も多数お見えになって…

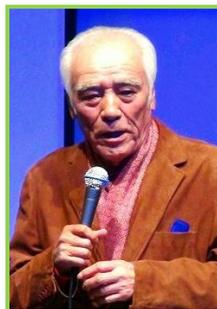
久しぶりの例会ともなった
十字屋ホールには、Tokyo
Jazz Vocal Appreciation
Society / ボーカルを楽しむ
会を主宰され、日本のヴォー
カル評論の第一人者高田敬
三さん、また、フランク・シナト
ラの熱狂的大ファンで、高田
馬場でカフェ&バー・アルバ
ート(シナトラの本名はフラン
シス・アルバート・シナトラ)を
開き、自らもボーカリストの志保澤留里子さんもご来場い
ただきました。

また、シンガーソングライターのみなみらんぼ
うさんも奥様と！ みなみさんは、大学の卒論が
ジャズの歴史だったという事で、例会ご出席の常
連さん。以前、例会を日本経済新聞のコラムで
ご紹介いただいたこともありました。4月はネパ
ールを山歩きされていたそうで、あの大地震とは危
機一髪だったのではないかと思います！

そして、朝日イブニングニュースに朝日新聞の天声人
語の英訳を連載、英和対訳 世界のスターと英語で話そ
う、天声人語で英語に強くなろう、などの著者があるシゲ



(写真左から)志保澤留里子さん、外山さん、ダリルさ
ん、高田敬三さん



藤田さん。93歳になられたが、お1人でお元気に銀座ま
でお出で下さいました。

日米の良き時代のジャズミュージ
シャン、歌手、芸能人、多くの方々を
ご存じのシゲさん、コンサート後も楽
しかった！最近の若いジャズメンは
上手だけど、楽しくない…と、ルイ・ア
ームストロングの世界を大いにエンジ
ョイしていただきました。そして、1963
年、報道写真家でもあったシゲさん
自身が撮影された、サッチモと島津
貴子さんがダンスをされている写真、
しかもお2人のサイン入り、を送って下さいました！！
私達にプレゼントして下さいという事…あまりにももったい

ないので、NYのサッチモハウスをこの夏訪問の
際、贈呈することを考えています！

(次号で詳細を予定)

そして、元国土庁長官、石井一さん(写真左)。
お父様の石井廣治さんが日本マーキュリーの社
長で1953年JATPを日本に招聘、ジャズブーム
の火付け役となった。ご本人も若き日はテナーサ
ックスを演奏、最後に『聖者の行進』の豪快破天荒なボー
カルの飛び入りで盛り上げていただきました！

『21周年を迎え、21世紀を舞台に』再び古き良き時代のジャズの素晴らしさを！！

演奏・映像・トーク…楽しくわかりやすい「サッチモとジャズの歴史」

例会56回！皆様のご協力、心より感謝しております——外山喜雄・恵子



例会では何度も監修の労をとって下さった瀬川昌久さん

WJFの例会がスタートしたのは前身となった「ルイ・アームストロング・ファウンデーション日本支部」の発足と同時です。7月6日サッチモの命日に開催した発足パーティーには、油井正一さん、

いソノテルヲさん、池上悌三さん、石原康行之さんらがご出席、瀬川昌久さんからの祝いメッセージも

いただいた。原朋直、谷口英治、原田靖、ドリー・ペーカー、水森亜土の各氏が参加の外山喜雄とデキシシーセイツとのジャムセッション、そして、サッチモが歌う『この素晴らしき世界』の映像。生演奏と映像を組み合わせ、楽しくわかりやすく“サッチモとジャズの歴史を”という、私たちの

例会のスタイルが、スタートから形作られていました。

1ヵ月後の8月22日には、浅草女将さん会の富永照子さんが日本に呼ばれた、ジョン・ブルーニアスとニューオリンズ・オールスターズを招いての例会(写真上)。10月にはスウェーデンから来日した1920年スタイルのバンド、スウィーディッシュ・ジャズキングスの例会も開催。

その後、しばらく、ジャズ映画とトークで楽しむサッチモの世界として映像とトークによる例会が続きました。95年3月には、油井正一さんの『私のジャズ体験』。独特の油井先生の名調子でお話いただいた懐かしい例会、ジャズ評論の第一人者、故油井先生に第1回目のサッチモトークをお願いできたことは、WJFの誇りでもあります。発足1周年記念には、池上悌三さん、その後、水道橋スウィングのマスター柴田栄一さん、中村宏さん、いソノテルヲさん、瀬川昌久さんと続いてお話を伺いました。

発足1年半後には、サー・チャールズ・トンプソンさんが早くも登場、奥様の牧子さんと共に、有志が例会後、居酒屋「後楽」によって打ち上げを開催したのも、実に楽しい思い出です(写真右上)。サー・チャールズさんとは、97年

まで4回、また、一時アメリカへ帰国後再来日、2002年に再登場して頂き2回の例会、2011年92歳の時にも例会に来ていただき、WJFクリスマス・パーティーのゲストとしても2012年94歳になられるまで3回もおいでいただきました！！

協会発足から数年経った頃、サッチモ生誕100年を巡ってサッチモの話題が盛り上がりました。1988年にある研究者の発見で、1900年7月4日に生まれたと思われていたサッチモの本当の誕生日は1901年8月4日だったという事実が判明。サッチモ生誕100年は、2000年なのか2001年なのか…そんな話題の盛り上がりの中で、ウイントン・マルサリスが、リンカーンセンターで『サッチモ・トリビュート・コンサート』を1年間のシリーズで開催するという。そのことを先駆けてニュースで知り、私たちも日本ルイ・アームストロング協会主催で、いくつものシリーズ例会を企画、監修を瀬川先生にお願



いしました。

『サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム』(5回シリーズ)、『サッチモ生誕100年とジャズの巨人たち』、『ジャズ創世期の旅』(5回シリーズ)、夫婦でデキシシー30年『サッチモとたどるジャズの歴史』(5回シリーズ)。創世期の旅は芸術

祭参加の総集編も開催、皆様のお支えのおかげで、映像と演奏による画期的な例会の数々を日本で実現することができた…これは世界に誇っても良い出来事だったと思います。そして、今回久しぶりに、56回目の開催となった『ルイ・アームストロングとポピュラーミュージックの世界』！

皆様のご協力、心より感謝しております。(次ページ8~9面に全56回詳報)

ニューオリンズが被ったハリケーン被害、そして日本の大震災、被災した日米両国の子供たちのジャズ交流も生まれ、そちらの活動の比重が多くなってきましたが、『21周年を迎え、21世紀を舞台に！！』…再びサッチモと古き良き時代のジャズの素晴らしさを伝えていく、例会等の活動も力を入れていきたいと思っています。



1994~2015 WJF「全56回」例会

(敬称略)

回数	日付	表題	場所	内容
発足	1994.07.06 (サッチモの命日)	ルイ・アームストロング・ファウンデーション・ ジャパン設立パーティー	渋谷ボス	ゲスト: 油井正一、いそノテルヲ、池上悌三、石原康之 出演: 原朋直、谷口英治、原田靖、トリー・ベーカー、水森亜土
	1994.07.24	第14回サッチモ祭	東急日本橋店	屋上ビアガーデン ゲスト: トリー・ベーカー (VO)
1	1994.08.22	A Night in New Orleans	渋谷ボス	ゲスト: ション・ブルーニマス・ニューオリンズ・ジャズ・オールスターズ
2	1994.10.11	Swedish Jazz Kingsを迎えて	浅草本覚寺	ゲスト: スウェディッシュ・ジャズ・キングス、パイユーストンパーズ
3	1995.03.03	ジャズ映画とトークで楽しむ サッチモの世界	アネフランセ	ゲスト: 油井正一「私のジャズ体験」
4	1995.07.12	1周年記念例会	アネフランセ	ゲスト: 池上悌三
	1995.07.23	第15回サッチモ祭	東急日本橋店	屋上ビアガーデン ゲスト: トリー・ベーカー (VO)
5	1996.01.19	「サー・チャールズ・トンプソンを迎えて」	アネフランセ	ゲスト: 元水道橋Swingマスター柴田栄一
6	1996.06.14	「サー・チャールズ・トンプソンを迎えて」	アネフランセ	ゲスト: サー・チャールズ・トンプソン
	1996.07.20	第16回サッチモ祭	東急日本橋店	屋上ビアガーデン ゲスト: トリー・ベーカー (VO) サー・チャールズ・トンプソン (P)
7	1997.02.14	「サー・チャールズ・トンプソンを迎えて」	アネフランセ	ゲスト: サー・チャールズ・トンプソン
8	1997.06.20	「さようならサー・チャールズ・トンプソン」	アネフランセ	ゲスト: 中村 宏
	1997.07.27	第17回サッチモ祭	大丸東京店	
9	1998.01.15	新年会	ラルゴ	ニューオリンズ風新年パーティー
10	1998.05.15	日本ルイ・アームストロング協会 (WJF) 新体制発足記念例会	TUC	ゲスト: いそノテルヲ
11	1998.07.04	「若き日のサッチモと 1920年代のジャズ」	TUC	司会・トーク: 瀬川昌久
	1998.07.26	第18回サッチモ祭	大丸東京店	屋上ビアガーデン ゲスト: トリー・ベーカー (VO) 藤家虹二 (CL)
12	1998.11.12	「サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム」-1	サッチモ生誕100年 5回シリーズ アネフランセ	1932年~1942年「若き日のサッチモ」 ゲスト: 瀬川昌久
13	1999.01.14	「サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム」-2		1943年~1947年「ヒリー・ホリデイと共演」 ゲスト: 瀬川昌久
14	1999.03.11	「サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム」-3		1948年~1956年「サッチモ・イン・ハリウッド」 ゲスト: 瀬川昌久
15	1999.05.06	「サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム」-4		1957年~1958年「世界を廻った音楽大使「サッチモ」
16	1999.07.08	「サッチモ・ワンダフル・オン・フィルム」-5		1959年~1969年「ワット・ア・ワンダフルワールド」
	1999.07.25	第19回サッチモ祭	大丸東京店	屋上ビアガーデン ゲスト: トリー・ベーカー (VO) ジミー・スミス (Dr)
17	1999.12.09	「サッチモ生誕100年とジャズの巨人達」-1	アネフランセ	「サッチモとジャズの故郷ニューオリンズ」 ゲスト: ニューオリンズ・ラスカルス
18	1999.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
19	2000.03.23	「サッチモ生誕100年、その歴史をたどる」 -2	アネフランセ	「シドニー・ベッシュとソプラノ・サクソ・ジャズ」 特別ゲスト: ジョージ・フロート
20	2000.07.13	「サッチモ生誕100年、 ジャズ創世期への旅」-1	アネフランセ	「1917年世界初のジャズレコード吹き込まれる」 ゲスト: 関泰子 (Violin) ジェニファー・ヒューズ (ゴスペル) 解説: 瀬川昌久
	2000.07.20	第20回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト: トリー・ベーカー (VO)
21	2000.10.19	「サッチモ生誕100年、 ジャズ創世期への旅」-2	アネフランセ	「ジェリー・ロール・モートンとアーリー・ジャズの巨人達」
22	2000.11.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
23	2001.01.18	「サッチモ生誕100年、 ジャズ創世期への旅」-3	アネフランセ	「日本のサッチモ、南里文雄と日本のジャズ創世期」 ゲスト: 藪田憲一とテキシーキングス 高橋伸寿 (Vo) 松井かおる
24	2001.04.19	「サッチモ生誕100年、 ジャズ創世期への旅」-4	アネフランセ	「世界をスイングさせた男/若き日のサッチモ」
25	2001.07.19	「サッチモ生誕100年、 ジャズ創世期への旅」-5	アネフランセ	「ローリング・トゥエンティーズ!! 激動の1920年代」 ゲスト: 関泰子 (Violin) 下間哲 (TP) 清水万紀夫 (CL)
	2001.07.20	第21回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト: 水森亜土 (VO) 原朋直 (TP)
26	2001.10.25	「平成13年度文化庁芸術祭参加」 ジャズ創世期への旅	ヤマハホール	「ルイ・アームストロング生誕100年ジャズ創世期への旅」 ゲスト: 原朋直 (tp) 関泰子 (Violin) トリー・ベーカー (Vo) シャンター・マクキャリー (ゴスペル) トークゲスト: 瀬川昌久
27	2001.12.24	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	

回数	日付	表題	場所	内容
回数	日付	表題	場所	内容
28	2002.05.03	「再会！サー・チャールス・トンプソン」	新浦安ハブ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン
	2002.07.20	第22回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場
29	2002.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
30	2003.05.23	「再会！サー・チャールス・トンプソン」	新浦安ハブ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン
31	2003.06.17	「ベスト・オブ・レイ・アームストロング オン フィルム」	アネフランセ	特別ゲスト:与田輝雄(テナーサクソ)
	2003.07.21	第23回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
32	2003.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
33	2004.05.11	「10周年特別企画 皆様へ 感謝を込めて」	アネフランセ	「ジャズ映画と生演奏楽器プレゼント報告のタベ」 当日ご来場の皆様に10周年記念プレゼント
34	2004.07.06	10周年特別企画 映画 「サッチモは世界を廻る」	アネフランセ	特別ゲスト:和田誠
	2004.07.19	第24回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
35	2004.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
36	2005.06.15	夫婦でデキシー30年 「サッチモとたどるジャズの歴史」第1回	アネフランセ	「少年サッチモが聴いたジャズ」1901～1923年 ゲスト:瀬川昌久
	2005.07.18	第25回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
	2005.10.10	ハリケーン ニューオリンズ 救援 緊急サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	
37	2005.11.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
38	2006.01.18	夫婦でデキシー30年 「サッチモとたどるジャズの歴史」第2回	アネフランセ	「サッチモの黄金時代(1)1923年～1928年シカゴ騒然、ニューヨーク激震」 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)クリス・キャブレス(P)下間哲(TP)田辺信男(Sax)
	2006.07.17	第26回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
39	2006.11.06	「ボブ・グリーンを迎えて」	新浦安ハブ	ゲスト:ボブ・グリーン
40	2006.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
41	2007.01.11	夫婦でデキシー30年 「サッチモとたどるジャズの歴史」第3回	アネフランセ	「サッチモの黄金時代(2)1929年～1934年」ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
	2007.07.16	第27回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
42	2007.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
	2008.07.21	第28回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
43	2008.10.29	夫婦でデキシー30年 「サッチモとたどるジャズの歴史」第4回	アネフランセ	「スイング・ザット・ミュージック」1935～1945 門外不出のサッチモ・ビッグバンド・アレンジが日本に!! 例会では15人編成スペシャル・サッチモ・ビッグバンド!!
44	2008.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
45	2009.7.12	日本レイ・アームストロング 協会設立15周年感謝の集い	上野精養軒	ゲスト:日野皓正・前田憲男・藤家虹二・水森亜土 谷口英治・下間哲・中川喜弘・ジミー・スミス他
	2009.07.20	第29回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:ジミー・スミス(Dr)
46	2009.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
47	2010.7.6	夫婦でデキシー30年 最終回 「サッチモとたどるジャズの歴史」第5回	アネフランセ	「デキシーランドジャズ・リバイバルとサッチモ大使」
	2010.07.19	第30回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:水森亜土(VO)とローズ・マリ・ダンサーズ
48	2010.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン
49	2011.2.15	お帰りなさい！サー・チャールス・トンプソン ジャズ映画とライブコンサート	アネフランセ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン92歳 蘇るハンガート盤、ビック・テイケンソン・ショーケース・セッション！！
	2011.07.18	第31回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場
50	2011.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン
51	2012.05.27	銀座で気仙沼支援チャリティライブ	銀座TSビル	気仙沼復興プロジェクトfrom銀座
	2012.10.14	第32回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:水森亜土(VO)とローズ・マリ・ダンサーズ
52	2012.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	ゲスト:サー・チャールス・トンプソン(94歳)
53	2013.4.30	外山喜雄恵子国家戦略大臣表彰記 念 映像とトークとライブコンサート 「世界を廻った音楽大使サッチモ」	渋谷 伝承ホール	ゲスト:原信夫・瀬川昌久・飛入りゲスト日野皓正 演奏:花岡詠二・中川喜弘・下間哲・筒井政明・藺田勉慶・ 外山喜雄・恵子・鈴木孝二・粉川忠範・藤崎羊一・サバオ渡辺・広津誠、 司会:中川ヨウ
	2013.09.29	第33回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:水森亜土(VO)とローズ・マリ・ダンサーズ
54	2013.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	
	2014.10.26	第34回サッチモ祭	恵比寿麦酒記念館	銅釜広場 ゲスト:水森亜土(VO)とローズ・マリ・ダンサーズ
55	2014.12.23	懇親クリスマスパーティー	新浦安ハブ	ゲスト:中村誠一
56	2015.3.28	サッチモとポピュラー ミュージックの世界	十字屋ホール	生演奏と映像でサッチモの足跡をたどる。特別出演:トーク 佐藤修

ルイジアナ・ミュージアム基金発行の雑誌に大きく報じられる(全訳)
新しい展示『ルイジアナ音楽体験』に日本から1万ドル!

世界から寄付が
近日公開予定の展示は、世界中のジャズファンへの
スイートな音楽となるでしょう!

日本のジャズマン、外山喜雄に、トラディショナル・ニュー
 オリズ・ジャズについて尋ねると、一生ジャズを研究して
 きた彼の、ジャズ事典のような答えが返ってくる。

ルイ・アームストロングの1922年のヒット(訳注:1926年)、『ヒービー・ジー・ビーズ』はどうだろう? 「スキヤット唱法の歴史的初録音」と間髪をいれず答が返ってくる。それだけではない、彼は、その曲を歌いホットなトランペットでスウィングすることもできる。そんな彼はいま、国際的な評価を受けるようになっている。(彼がサッチモスタイルで歌う時、日本なまりの英語は突然消えてなくなる!)

彼とデキシー・セインツにとって、ニューオリズは2つ目の故郷。昨年8月、旧造幣局で開催されたサッチモ・サマーフェストで、彼らは再び聴衆を沸かせ、そして“日本の伝統”に従って贈り物をも

持ってきてくれた。新しい展示『ルイジアナ音楽体験』(the Louisiana Music Experience)のためにルイジアナ・ミュージアム基金への、1万ドルの寄付金だ。
 このギフトは、増山律子さん(訳注:ランスタッド(株)名誉会長で故増山瑞比古氏夫人。50万円をご寄付。増山瑞比古氏は(株)フジスタッフ創業者。ニューオリズをハリケーン・カトリーナが襲った翌年ニューオリズを訪問)を筆頭とする日本のジャズファン達の寄付をまとめたものだ。2014年夏、造幣局で行われた

寄付金の贈呈式には何名かの寄付者も出席していた。「日本の人々はジャズが大好きです。この素晴らしい展示をサポートすることができて光栄です」と外山さんは語る。

日本のほか、ノールウェイ、スウェーデン、英国からも、同じく計1万ドルの寄付が寄せられている。こうした国際的な寄付集めの広がりは、元ジャズ博物館館長ドン・マルキさんの努力が大きな力となったものだ。

500万ドルの予算による『ルイジアナ音楽体験』の展示は、ジャズ、ゴスペル、カントリー、オペラ、クラシック、リズム&ブルース、ロックン・ロール…世界的に有名なすべてのジャンルの音楽をカバーする、ルイジアナ州立ミュージアムのコレクション常設展として、2017年にミント(旧造幣局)で公開される予定となっている。



Jazzman Yoshio Toyama leads a second line parade at Satchmo Summerfest in New Orleans. Back home in Japan, he brings jazz fans together to support the Louisiana Music Experience, opening in 2017 at the Old U.S. Mint.

GLOBAL GIVERS
 Upcoming exhibit is sweet music to jazz fans worldwide

Ask Japanese jazzman Yoshio Toyama anything about traditional New Orleans jazz and you'll get the answer in encyclopedic depth acquired over a lifetime of devoted study.

How about Louis Armstrong's 1922 hit "Heebee Jeebees," for instance? "The historic first recording of scat singing," he replied, not skipping a beat. Toyama can sing it too (his Japanese accent suddenly disappears when he sings Satchmo-style) and swing it on a hot trumpet that has brought him international acclaim.

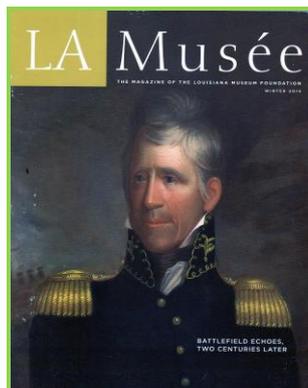
New Orleans has become a second hometown for Toyama and his band, the Dixie Saints. They returned last August for another crowd-pleasing turn at Satchmo Summerfest at the Old U.S. Mint. And true to Japanese custom, Toyama brought a gift: A \$10,000 donation to the Louisiana Museum Foundation to help build the new Louisiana Music Experience exhibition.

The gift grew from pooled contributions from Japanese jazz fans, including lead donor Ritsuko Masuyama. Several donors joined Toyama for a presentation ceremony at the Mint. "The people of Japan love jazz music," he said. "We are honored to support this wonderful exhibit."

Donors in Norway, Sweden and the United Kingdom have chipped in another \$10,000, thanks to retired jazz curator Don Marquis, a key player in the global fundraising effort.

Scheduled to open at the Mint in 2017, the \$5 million Louisiana Music Experience will provide a permanent

写真は、ニューオリズのサッチモ・サマーフェストで、セカンドライン・パレードの先頭に行くジャズマン外山喜雄 (訳注:写真の中央はNYCサッチモ邸の隣人で今は亡きセルマ・ヘラルドさん=2011年8月7日)



外山さんのこの記事が掲載されたルイジアナ・ミュージアム基金発行の雑誌『LA Musée』(博物館)2014年冬号の表紙。ニューオリズから外山夫妻のもとに送られてきて、寄付金の寄贈者全員に配布された

相互の助け合い活動に深くかかわってきた。2005年のハリケーン・カトリーナで被災したニューオリズの子供達に、彼は義援金と

外山さんは、以前からニューオリズと日本の

楽器を集め贈ってくれた。また、2011年の津波で壊滅的被害を受けた日本を慰問する、ニューオリンズのボランティアグループの訪問を実現させた。

まもなく公開される展示に、外山さんは必ずやってきてくれるだろう。名誉あるゲストとして、また、偉大なニューオリンズの音楽家たちのハッピーな後継者として！

そして、是非、アームストロングが手にした最初のコロネットや、シドニー・ベッシュのサクソ、キッド・オーリーのトロンボーン、そして、唯一知られているバディー・ボールデン（訳注：初代のジャズ王）の写真を見てもらいましょう！

YOSHIO、ありがとう。お待ちしております！

We'll be ready for you!

東京・銀座の「ジャズひな祭り」 「外山恵子と Jazz' n Babies」

年に一度の「ジャズひな祭り」…恵子さんが年に一度だけリーダーとなる「外山恵子と Jazz' n Babies」の晴れのステージが3月8日、今年も東京・銀座の並木通りに面した2会場で繰り広げられた。両会場とも、あの顔、この顔…お馴染みの恵子&セインツ・ファンが姿を見せ、この日ならではの恵子さんのピアノ&バンジョーをたっぷり聴かせてもらった。



桃の節句は過ぎてしまっていたが、“恵子姫”率いる“笛や太鼓の5人囃子”外山喜雄(tp,vo)、粉川忠範(tb)、鈴木孝二(cl)、サバオ渡辺(ds)、藤崎羊一(b)が、お姫様のもとに参集、熱演する。(写真右上)



女性客が男性客を凌いで多かったのも頷けます。恵子さんのピアノ『バーベキュー料理で踊ろう』で幕を開ける。

ピアノとバンジョーもたっぷり

バンジョーの演奏では『リード・ミー・セイビア』…『スイングしなけりや意味がない』ではバンジョーをフィーチャーした素晴らしい試み。そして『スワニー河』で遙かなる南部へと誘う。

第2会場での「外山恵子と Jazz' n Babies」は、『ライムハウス・ブルース』でスタート。なんといっても、この催しのお楽しみは、恵子さんの“司会”というか、シャイで照れまわった“おしゃべり”と進行の指示。なんといっても年に一度のリーダー、そのリーダーがメンバーに的確な指示を出さないと、メンバーの“5人囃子”は、何をやっていいのやら…動くに動けないのだから大変な役割。

演奏曲目を伝え、メンバーを紹

介…そこまでは良かったが、自分自身の紹介を忘れてたりして…。いやあ、はらはらどきどき、演奏を聴く楽しみはもとより、これもまた…(写真左)。

恵子さんのバンジョーをフィーチャーした『世界は日の出を待っている』で、無難にしっかり締めましたが、なんとこの種のイベントでは珍しくアンコール！？カウンターに若い人たちがズラリと席に着いていて乗りまくっていた。それに応えたのでしょうか。『ユー・アー・マイ・サンシャイン』が熱狂的な声援へのレスポンス。まさにスタンディング・オベーションといった感じで幕を閉じたのでした。

恵子さんのリーダーアルバムお忘れなく！

また、来年が待ち遠しいですね。「外山恵子と Jazz' n Babies」の CD といえば、そうそう昨年発売の、恵子さんの初リーダーアルバム BANJO & PIANO 『KEIKO'S NEW ORLEANS SPIRIT 世界は日の出を待っている』があるんでしたね。お忘れなく！

シリーズ 私と音楽 ④ 佐藤修 (元ポニーキャニオン代表取締役社長、元日本レコード協会会長)



ディキシージャズに傾倒した少年時代

音楽を聴き始めたのは中学生の頃で、プレスリーやポール・アンカが人気のあった時代ですが、僕はまったく興味はありませんでした。それより、グリーンミラー楽団の演奏に引かれました。それ以来ディキシーやスイングを中心にジャズに夢中になりました。そして行きついたのがルイ・アームストロングとジョージ・ルイスです。今のうちに情報が豊富ではありませんので、もっぱらジャズ雑誌を読みました。

ポピュラーは広く聴かれてこそ

学生時代はツーカーばかりやっていましたから、大学卒業時になっても就職したんだ？とのんきなものでしたが、それでも1964年に日本ビクターに入社しました。当時ビクターがディキシーのカタログを豊富に持つトリパーサイド・レーベルと契約したという話を聞きつけ、これだ！と思うと志望したんです。初めはレコード店回りの営業です。そこで覚えたことは、ジャズ二辺倒だった学生時代は、売れる音楽は妥協的だと思っていました。ポピュラー音楽とは広く聴いてもらってこそ、初めて価値が生まれるということでした。

70年代の初めに洋楽宣伝課長になつてからは、洋楽のあらゆるジャンルを開拓していきました。ジャズだけではなく、ソウル、ロック、ラテン、フュージョンなどを日本に根付かせようと努力しました。

邦楽に関しては、サザンオールスターズ、小泉今日子、B'z、福山雅治などと契約し、会社にはそれなりに貢献できたと思っています。BMGビクターを退社後、99年にポニーキャニオンに移り、社長を務めました。2004年からはレコード協会会長も務めました。音楽業界、筋で生きてきたが、音楽美でしょうか。06年に監獄受入れ、13年には旭日中綬章をいただきました。

佐藤修さんのコラムが3月26日付けの日本経済新聞夕刊「私と音楽」のコーナーに掲載された。奇しくも銀座・十字屋ホールで開催された「サッチモとポピュラーミュージックの世界」とも関連している話題なのでここに転載させていただいた。

聞き手 大原基良/書き手 小針俊郎

『瀬川昌久 presents「Jazz I Love」』

第27回ミュージック・ペンクラブ音楽賞の 「コンサート・パフォーマンス賞最優秀賞に輝く」

昨年6月17日に東京・渋谷大和田伝承ホールで開催された、瀬川昌久さんの卒寿お祝いコンサート『瀬川昌久 presents「Jazz I Love」—サッチモから日本のJAZZまで—』が今年4月、何とも素晴らしい第27回ミュージック・ペンクラブ音楽賞の“コンサート・パフォーマンス賞(日本人アーティスト)”の最優秀に輝いたのです。

このコンサートは日本ポピュラー音楽家協会主催(瀬川さんは専務理事)で、日本ルイ・アームストロング協会が協力し、私たちデキシーセッションが音楽を担当させていただいたのです。お役にたてて、嬉しいかぎり。瀬川先生、おめでとうございます！！ 応援に駆けつけて下さったトップ・アーティストもみなさん、バンドメンバーのみなさん、ありがとうございました！ (外山喜雄)

(写真は、瀬川さん=中央=と、お祝いに駆けつけた佐藤美枝子さん=左、日本ポピュラー音楽家協会理事・事務局長= & 外山さん)



あのショーン君がパパになった

ニューオリンズをハリケーン・カトリーナが直撃する直前、我々「サッチモの旅」は、寄贈楽器の贈呈でG.W.カーバー高校を訪ねた。当時、同校OBのショーン君(Sean Roberts)は、とってもダンディーでおどけまくって我々に挨拶、人気者だった。その彼と再会したのは、2008年「サッチモの旅」の時だった。

いつものツアーのようにセント・オーガスチン教会のサッチモ「ジャズミサ」で演奏する外山さんの隣に座っていた若いトランペッター、何とも暗い表情で、手にしたトランペットはボロボロ。外山さん「彼に、何としてでもトランペットをプレゼントしたい」。2010年、彼の手に新品のトランペットが届けられた。「何と、彼が、あのショーン君だったんですよ」と外山さん。

以後、毎年サッチモ・サマーフェストでニューオリンズを訪問する際、明るくはつらつとトランペットを吹くショーン君(もう成人して「君」じゃないなあ)に何度もあっている。とってもカッコいいんだ。そんな折、配信されてきた写真を外山さんが get。彼がお父さんになったのだ！ 何とも可愛らしいこのお嬢さん！ 今年また夏にお会いしましょうね。



ご寄付と嬉しいお手紙

ありがとうございます

- ◆東京九段ライオンズクラブ様 5万円
1994年、同クラブの30周年記念として、発足間もない私達WJFに大変重要なご寄附をいただき、35点の楽器が海を渡りました。今回はまた、東京九段ライオンズクラブ50周年にあたり、7月開催の WJF 設立21周年記念パーティーへのご支援として、ご寄付をいただきました。永年のご支援、感謝いたします。
- ◆宇都宮「スウィング・ハード」 11万9811円
原信夫、北村英治、ペギー葉山、前田憲男らのみなさんをゲストに迎えた第44回コンサート(2014. 11 宇都宮市文化会館)。
- ◆同「スウィング・ハード」 2万4086円
2015. 03 開催の宇都宮ジュニア・ジャズ・オーケストラのコンサートでの募金。いずれも主催者の吉原郷之典さんを通じてニューオリンズ・東北支援へのご寄附を呼びかけられました。
- ◆四方邦晴様 (相模原市) クラリネット

募集中

♪ジャズを愛する皆様
どうか会員になって下さい！！
また皆様のお知り合いの方々に
ぜひ、WJFへのご入会をお勧め下さい

= WJF年会費 =

一般会員(General Membership)	¥6,000
学生会員(Student Membership)	¥3,000
賛助会員(Friends of Louis Armstrong)	¥12,000

■会費のお振込み先■

郵便振替 00110-4-415986

ワンダフルワールド・J・F

銀行振込 三菱東京 UFJ 銀行浦安駅前支店

普通:5175119「ワンダフルワールド」

お問い合わせは:WJF事務局

TEL: 047-351-4464

Fax: 047-355-1004

Email:saints@js9.so-net.ne.jp

日本ルイ・アームストロング協会HP

検索エンジン:Yahoo,Google で

<検索>ルイ・アームストロング

<http://members3.jcom.home.ne.jp/wjf>

『サッチモとポピュラーミュージックの世界』をテーマとしたWJF例会は、銀座の十字屋ホールで開催され、ジャズを世界に広めたサッチモのポピュラー音楽特集は素晴らしい企画で、胸に響くものでした

▼ホット5・7、オールスターズでのサッチモの偉大さと、私の好きなサッチモのハワイアン、「ココナッツ・アイランド」などに代表されるポピュラー音楽の演奏とボーカル、ともにサッチモなので、例会でのトークゲスト、佐藤修さん曰く「音楽は聴き手に受け入れられなければならぬのです」▼5月23日、長野市門前ジャズストリートにメインゲスト出演の外山喜雄とデキシーセッションの演奏を聴いてきました。長野のジャズファンはシャイであり、感情を出さないとのことでしたが、セッションの演奏への反応は、ステージと客席のコール&レスポンス、セカンドラインの傘を使っているパレードも大変な盛り上がりで、「ジャズは楽しい！」と長野の皆さん大喜びでした。サッチモのエバンジュリスト(伝道師)外山さんのここに笑顔が印象的でした。(山)